

第247回 令和8年6月10日(水)

「地政学的に見ると…」

地政学という地理と政治の関係性を学ぶ分野が注目を集めています。いまの状況は地政学的に解釈すると合致している部分が多いような気がします。ただしこれも一面のみを現しており、政治というのは複雑な要素が幾重にも絡まっていることを忘れてはいけません。

中東問題、台湾問題の二つは現在世界でもっともリスクのある緊急課題です。どちらも「チョークポイント」と呼ばれる地理環境が関係しています。

この「チョークポイント」とは陸地によって海の道が制限されているエリアのこと。中東のホルムズ海峡が代表例です。海運を制限することが容易で、各国に深刻な影響をもたらすことはニュース等を見れば明らかです。

台湾近海にも多くのチョークポイントがあります。バシー海峡、台湾海峡、マラッカ海峡、さらに沖縄の近くにも宮古海峡というチョークポイントがあります。ここは世界貿易の大きな航路となっています。特にアメリカとアジアを結ぶ海峡のため、中国が制海権を掌握することはアメリカにとって大きな打撃になります。

地政学の原則で、陸地に国境を持つ「ランドパワー」の国と、海や大河など水に囲まれた「シーパワー」の国があると言われています。日本は間違いなく「海洋国家」です。アメリカもカナダと国境は接していますが「シーパワー」の国と言えます。

ランドパワーの国は侵略を受けやすく、周辺の色と緊張状態にあることが多いので、「国防」が国の命題となります。一方シーパワーの国は他国からの侵略が少なく、「国防」への危機感は薄れます。アメリカのように海洋を掌握すると他国に影響力を持つことも可能になります。

ロシアや中国はランドパワーの代表国のため、常に国境に緊張を抱えています。特にロシアはすぐ近くがNATOに属する西側諸国のため今回のようなウクライナとの戦争にも躊躇がありません。中国も同様で、チベットやインドのカシミール地方などいまでも不安定な政治が続いています。台湾も含め中国は「一つの中国」路線を崩すことはありません。

地球温暖化によって北極やグリーンランド付近の氷河が溶けて、船が航行できるようになるとロシアは「シーパワー」も獲得することが可能になります。アメリカがグリーンランドの領有に積極的なのはここに原因があります。

日本はシーパワー国家でありながら戦争の過ちを経験し、平和国家であり続けようとしている国です。その姿勢は堅持してほしいと思います。